

各地で学生食料支援

「生活費はぎりぎり」

■京都

コロナ禍で苦しむ学生を支援しようと、日本民主青年同盟などが取り組む食料の無償提供と相談会が13日、京都府内3カ所（京都市中京区、同西京区、向日市）であり、合わせて1388人が参加しました。

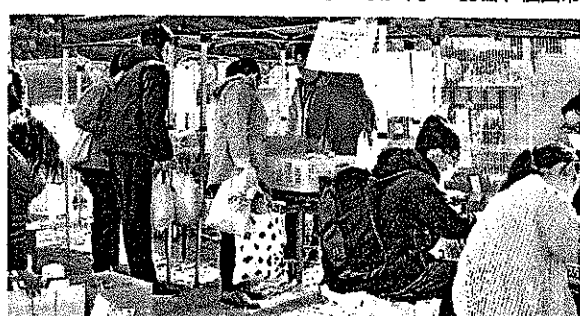
京都市中京区の太子道診療所で行われた支援には、近くにある花園大学や看護・専門学校（学生ら90人）が、マンションに配布されたチラシなどを見て次々に訪れました。中京区食料支援プロジェクトが主催し民青中京地区委員会が共催しました。



野菜や米などの食材を受け取る学生＝13日、京都市中京区



今までで最多の約120人の学生が訪れた「もってけ市」＝13日、松山市



支援物資を選んだり、調査に答える学生＝13日、熊本市

も大変な中、これ以上負担はかけられず食費を切り詰めたりにして、たどるころだったので、すぐく助かります」（女子学生）などと話していました。

参加した熊本学園大学の高林秀明教授は、コロナ禍での学生のニーズや実態を掘り起こすための重要な取り組みだと指摘しました。

5回目「もってけ市」

■愛媛

日本民主青年同盟愛媛県委員会は13日、学生生活支援プロジェクト「食料もってけ市」第5弾を松山市の愛媛大学前で開催し、最多の約120人が食材を受け取りました。

7月から始めた「もってけ市」は、5回の合計で410人の学生に食材を支援。9月以降、訪れる学生が毎回増え、学生生活がより

のに学費だけ払うのはおかしい」と述べ、花園大学の3回生も「オンライン授業」への不満を漏らしました。

松山大学の24歳の学生は「前回も来て2回目です。県外出身で1人暮らしなので助かります」と笑顔。松山市

「一人で悩まないで」

■熊本

熊本の「学生食料支援プロジェクト」が13日、県内で初めて熊本市の熊本大学近隣の公園で取り組まれました。

野菜や米、インスタント食品などの食料や日用品を配布。新型コロナウイルスによる生活実態調査、相談も行いました。日本民主青年同盟

ます相談の場に来てほしい」と述べました。会場には100人余りが訪れ、「アルバイトで生計を維持しているの、食費

が浮き彫りになりまして深刻になっていくことが増えています。愛媛大学1回生の2人連れ男子学生は、両手にダイコンやハクサイ、ミカン、米、缶詰、ミネラルウォーターなどをいっぱい詰め込んだ袋を掲げて「僕は前回も来て、たくさんもらっただけで、きょうは友達も来て来ました。初めに来てびっくりしました。本当にたなの

県委員会や幅広い市民などでつくる実行委員会の主催です。

実行委員会はこのプロジェクトを、ヒラ1500枚の配布やSNS、ハンドマイクで呼びかけました。実行委員長の柳生陸太さん（熊本大1年）は「学費、生活費、（将来的な）奨学金の返済」などの不安を「一人で悩